

# 笹子追分人形芝居

Sasago Oiwake Puppet Show

山梨県無形文化財指定

ここは甲州笹子の里  
峠によるこび灯した人形芝居



## 山梨県無形文化財指定 笹子追分人形保存会

〒401-0025 山梨県大月市笹子黒野田 91 番地  
追分ふれあいセンター（人形会館）  
☎ 0554-25-2545  
お問い合わせ / ☎ 0554-25-2339（事務局 / 斉藤）

保存会では、追分人形の保存活動や公演活動に、さまざまな形での  
ご参加・ご協力をいただけるみなさんを広く募集しています。消え  
ゆく歴史の証として、豊かな地域文化として、また郷土の誇りとして、  
笹子に伝わる人形芝居を百年先にも継承していけますようご参加を  
心よりお待ちしております。

※公演・学校等での鑑賞会・ワークショップ等の開催、稽古見学など、  
お気軽にご連絡ください。  
※座員・会員・賛助会員についても随時募集しています。

## 大月市観光協会

〒401-0013 山梨県大月市大月1丁目1-33  
☎ 0554-22-2942

## ここは甲州笹子の里

江戸時代、甲州街道の最大の難所の麓にあたった  
笹子村は、旅人が草鞋を脱ぎ、ひと息つく宿場にあ  
たりました。

笹子村の先人たちは山仕事のかたわら、淡路、江  
戸伝来の人形芝居を習得し、明日は峠に向かう客人  
をもてなしました。

そのころ峠はより高く、谷は深く、緑は鬱蒼と濃  
く感じられたことでしょう。山と川とともにあった  
厳しい暮らしを、助けあい支えあったふるさとの、  
灯火のような人形芝居でした。

以来三百年、時の流れに翻弄されながら、人形は  
土地の絆に守られ、連綿とつながるふるさとの歴史  
を今も舞いつづけています。

ひとえに、峠があったおかげです。

## 峠によるこび灯した

## 人形芝居

## THE SASAGO OIWAKE NINGYO

## 守られてきた

## 伝承の「かしら」



古浄瑠璃時代の非常に希少な三番叟  
の「かしら」をはじめ、淡路の人形  
師として名高い『由良亀』、阿波の『天  
狗久』、『人形富』といった名匠の「か  
しら」など、さまざまな時代と地域  
の「かしら」が、追分人形には、今  
も約百二十体伝え残されています。  
大切な「かしら」をさらに後世に残  
すため、現在のお芝居には、古いも  
のを「模刻」したり、修復しながら  
大切に使用しています。



三番叟（約320年前）



検非違使  
（約180～210年前）



娘  
（天狗久作）



娘  
（人形富作）



八汐  
（初代・由良亀作）



丁稚  
（約250年前）

# この灯火を、 次の百年へ

公演にむけて、稽古に励む。  
笹子の風土と歴史から生まれ、  
人々の喜びとなり、  
和となった三百年の伝統を、  
しっかりと受け継いで。



## 主遣い

重い人形を支えながら、繊細な感情表現もし、人形に命を吹きこむ。

## 三人遣い

江戸時代に考案された日本独自の人形操法。主遣い左遣い足遣いの息をぴったりと合わせると、まるで生きてような動きや表情が生まれます。

## 木偶(デコ)

首(かしら)づくりは伝統の技。木曾檜、鯨のヒゲ、胡粉、ヤクの毛など貴重な材を用い、人形師が「性根」という命を彫り込む。

## 左遣い・足遣い

主遣いの動きを瞬時に察知して反応します。

## 稽古

会社員、自営業、先生、主婦、学生など座員全員が本業があるため、稽古は日暮れてから…。

座員の方々の熱心なご指導により、貴重な文化が小さな子供たちへと受け継がれています。子供たちは、大好きなお人形と一緒に楽しみながら一生懸命練習をしています。

## 衣装

古い着物を持ち寄り、ほどこいて継いで、人形用に仕立て直す。昔ながらにすべて手づくり。

## 三味線・義太夫

大きな公演では竹本乾太夫先生と野澤仁一朗先生にご協力いただいています。生の演奏と語りの臨場感は、やっぱり格別です。



YOSHIKUBO BIJIN KAGAMI

## 吉窪美人鏡



八百年の昔から笹子に語り継がれてきた『葦ヶ池の伝説』は、七十年以上昔、「吉窪美人鏡親鸞聖人御法海『毒蛇濟度之段』として、追分人形で演じられていました。  
口伝であったため途絶えていましたが、この地元を舞台にしたお芝居の再演は、活動復活当初からの念願でした。復活から八年目の平成二十五年。約一年かけ、古い台本だけを頼りに、義太夫や三味線にも新たな演出を加え、ついに平成の『吉窪美人鏡』が完成されました。  
山梨県で開催された国民文化祭での初披露で、舞台上にあざやかに甦った郷土の物語りに、拍手喝采が注がれました。喜びは人形を必死に守り伝えられた先人にも届いたことと思います。

## 人形が舞う ふるさとの歴史、自然、心

笹子川のほとり、吉が窪に住む娘「およ志」が初めて恋したのは、阿弥陀堂で修業する若僧でした。無垢で一途な想いは、やがて娘を、おそろしい毒蛇に変えてしまいます…



## 演目レパートリー

- 傾城阿波の鳴門
- 奥州安達原
- 生写朝顔話
- 本朝廿四孝
- 壺阪観音靈験記 など



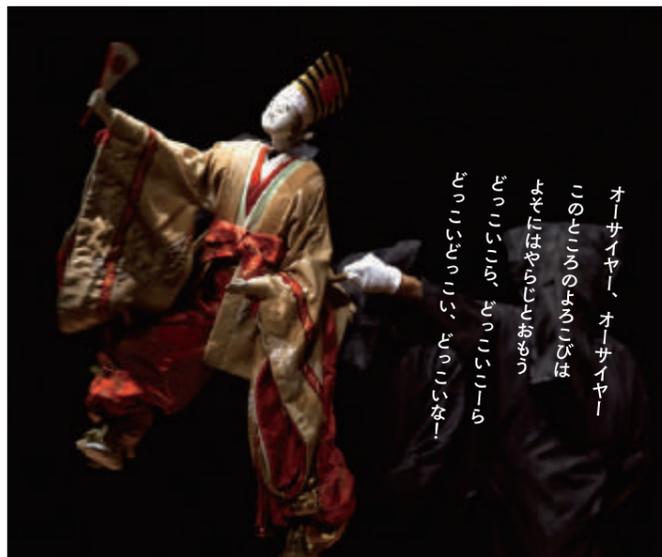
追分人形には明治初期の「義太夫百段」集が残されており、昭和の戦後間もない頃にも演目のレパートリーは五十作品に及んでいた記録があります。

古くから伝わる日本の物語りの素晴らしさを、人形芝居を通じて伝えます。



OIWAKE SANBANSOU

## 追分人形式三番叟



オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー  
オーサイヤー、オーサイヤー

なんとめでたい、おめでたい、この喜び！  
こんな喜びは他にはやらないで、  
ここに見に来た人と、  
おどる者だけで楽しもうじゃないか！  
古老の記憶などをもとに甦らせた『追分人形式三番叟』は、民俗学的にもたいへん貴重とされます。主遣いによる『口三味線』は全国的にも珍しいもので、めでたさの中に素朴さやユーモラスな味わいが感じられ、笹子の風土色が豊かに表現されています。  
(もとは神事だった人形芝居のルーツを感じられる演目が三番叟です。五穀豊穡を寿いだり、現在では舞台の開演始めや正月などおめでたい場で舞われます。)



## 追分人形が演じる古典の名作

百年、二百年と語り継がれてきた作品には、  
どんなに時を経ても、  
人の心をゆさぶる人間ドラマが込められています。

